



杉並区

南伊豆で杉並の気分を

30. 10. 27
杉並区広報課

エクレシア南伊豆で日本フィルが演奏

10月27日、特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」で、日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏団による演奏会が開かれました。この演奏会は、今年3月に開設したエクレシア南伊豆に杉並区から入所した32名に向けて、杉並区で過ごした日々を思い出してもらおうと企画されたもので、地元からの入所者や地域住民とともに、1時間ほどの演奏を楽しんでいました。

杉並区と南伊豆町の関係は、昭和49年に喘息児童の健康回復等を目的とした全寮制の杉並区立小学校「南伊豆健康学園」を設置したことから始まります。現在も小学校の移動教室や区民保養所としての「弓ヶ浜クラブ」があり、区民に親しまれています。こうした長年の交流が礎となり、両自治体間で災害時相互援助協定を締結し、また、お試し移住事業などを共同で実施しています。全国初となる介護保険の圏域を越えた自治体間連携の特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」は、こうした強い絆の中で本年3月に開設されました。現在、杉並区からは32名の方々が入所しています。

一方、杉並区から約200km離れているため、入所者やご家族の中には、「住み慣れた場所からの距離を感じる」との声がありました。そのため、離れていても距離を感じさせない取り組みとして、インターネットを活用し、お互いの顔を見ながら会話ができる環境を整えたほか、杉並区でのくらしを想起できるよう、区内イベントを体感できる取り組みを実施しています。今回、その取り組みのひとつとして、区民に馴染みの深い日本フィルハーモニー交響楽団による演奏会が企画されました。



わが国を代表するオーケストラの一つである日本フィルハーモニー交響楽団と杉並区は、同楽団が杉並区を活動拠点としてきたことから、音楽を通じた区民の豊かな交流と地域文化の振興に向けて、平成6年7月に相互協力に関する覚書（友好提携）を交わしました。それ以来20年以上に亘って、区内の施設での出張コンサートや杉並公会堂での公開リハーサルなど、様々な音楽イベントを開催しています。

27日午前10時、エクレシア南伊豆の利用者や地域住民など100名ほどが見守る中、日本フィルハーモニー交響楽団弦楽四重奏団の演奏が始まりました。クラシックでは、定番の「アイネクライネナハトムジーク」や「カノン」のほか、「川の流れるように」「上を向いて歩こう」など10曲を披露しました。杉並区から入所した70代の女性は、「徐々に、日本フィルを聴きました。杉並公会堂の演奏会に出掛けたことを思い出しました。」とうれしそうに話していました。